



## くすり相談委員会 全体研修会



日時:2017年(平成29年)10月6日(金)13:30～17:00

場所:ベルサール八重洲 「ルームD+E」

## プログラム

開会挨拶 日本ジェネリック製薬協会 伏見環 理事長

講演Ⅰ)「ジェネリック医薬品に対する現状と今後の課題ー現場の薬剤師の視点よりー」

講師 公益財団法人 日本薬剤師会 常務理事

公益財団法人 東京都薬剤師会 副会長

永田 泰造 先生

講演Ⅱ)「お薬相談外来と医薬品情報提供」

講師 鈴鹿医療科学大学 薬学部 病態・治療学分野

臨床薬理学研究室 教授

大井 一弥 先生

閉会挨拶 くすり相談委員会 中沢敏之 委員長

10月6日(金)ベルサール八重洲におきまして、くすり相談委員会の全体研修会を開催いたしました。今回は会員会社から25社45名にご参加を頂きました。

永田先生からは、後発品80%を目指すには諸問題に対するマイナス因子(後発品への拒否感や不満)を解消することを優先的に考えるべきとのご指摘を頂きました。安定供給や使用感(特に外用薬)以外に医療関係者が理解できる情報提供が重要とのことでした。開示することができない情報があると企業に不信感を抱くので、一律に開示不可と回答するのではなく、質問背景等の詳細を聞き取り、個別対応する説明力の強化が大切であると感じました。

大井先生からは、お薬相談外来での具体的な症例情報を含む医薬品情報提供についてご講演頂きました。薬剤師の職能を広げるため国内初の自費(自由)診療として、お薬相談外来を設立したのは、患者の抱えている問題点を理解して、治療の手助けをしたいという

背景があり、提携する三重大学病院との折衝といった苦労話についてもお聞きすることができました。高い臨床センスを磨くことが真の医療薬学を磨くことになることと、そして病態を知ることの重要性を力説されました。

ご講演の中で「費用を取ること、そこには責任が生じ、薬剤師も患者さんも本気になる。薬剤師という職能のためにも費用を取ることには拘った」というお言葉が特に印象に残りました。企業のお薬相談では、患者さんから費用を徴収することはありませんが、回答する際には最後まで責任を持ち対応に当たらなければならないと強く再確認させられました。

ご講演頂きました永田泰造先生、大井一弥先生には心より御礼申し上げます。

